

事後評価調書

【公園事業】

まちづくり局 公園緑地課

事後評価調書

部課室名	県土整備部まちづくり局 公園緑地課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	公園緑地課長 松下 剛士 (課長補佐兼整備係長 薬師寺 恒治)	内線	4475 (4486)
------	----------------------	---------------------	------------------------------------	----	----------------

事業種別	都市公園事業	事業名	阪神間都市計画公園事業	事業主体	兵庫県	
地区名	有馬富士公園		所在地	三田市福島 1091-2		
事業目的			事業内容			
阪神間における多様化するレクリエーション需要に対応するために、自然環境に恵まれた当地区を住民参加型の公園として整備する。 参考(評価時点の視点) ・大規模な緑地の保全(良好な景観や風景の維持) ・公園利用者の交流、体験、環境学習の場 ・里山活動や環境学習を通じた農山村体験の場			公園全体面積 A = 175.2ha (資料-1参照) 出合いのゾーン A = 71.2ha ・パークセンター ・あそびの王国 5.7ha ・かやぶき民家 90.0㎡ 休養ゾーン A = 13.9ha ・大芝生広場 2.0ha 山のゾーン A = 90.1ha			
事業期間	計画	昭和63年度～平成21年度		事業費 (用地補償費)	計画	366億円(215億円)
	実績	昭和63年度～平成20年度			実績	316億円(225億円)
完了年月	平成21年3月(第1期事業完了)		過去の評価	平成10年 再評価(継続) 平成15年 再々評価(継続)		

事業を取り巻く社会経済情勢等の変化

(1) 周辺のインフラ整備

交通インフラの整備

- ・有馬富士公園の整備事業が始まった昭和63年度に、舞鶴若狭自動車道が中国自動車道に接続し、舞鶴若狭自動車道三田西IC、中国自動車道神戸三田ICが設置された。
- ・その後、六甲北有料道路〔神戸三田IC〕(H2)、神戸電鉄公園都市線〔横山～フラワータウン間〕(H3)・公園都市線〔フラワータウン～ウディータウン間〕(H8)、三田幹線(H6全線開通)、などの主要な交通インフラが整備され、神戸・阪神間からのアクセスが飛躍的に向上した。
- ・再々評価実施の平成15年度以降は、北近畿豊岡自動車道(春日和田山道路)が平成18年度に供用され、但馬方面からのアクセスも向上した。

周辺人口

- ・三田市の人口は、ニュータウン建設に伴い年々増加していたが、平成15年度にピークを迎え、その後、減少し始め、現在約11.4万人である。公園整備が始まった昭和63年度の約4.1万人からは約2.8倍(約7.3万人増加)の増である。

(2) 公園管理手法の変化

- ・地方自治法改正(平成15年度)により、公の施設の管理運営を県やその外郭団体に限定していた、従来の「管理委託制度」が廃止され、「指定管理者制度」へ移行した。また、平成19年度に当公園の指定管理者を公募した結果、(財)兵庫県園芸・公園協会が選定され、平成20年4月より平成23年3月までの3年間、管理運営を行うこととなった。

有馬富士公園周辺の道路整備状況



事業の効果の発現状況

【直接効果】

(1) 阪神間の広域公園としての機能発揮

阪神間における広域公園の需要

- ・有馬富士公園が建設されたエリアは、ニュータウンと昔からの集落とが接する場所であり、三田市ではこのエリアを「三田市中央ゾーン土地利用構想(S58)」において、「新旧両住民が交流するための拠点」と位置付けた。
- ・また、青野ダム周辺的环境整備に合わせ、レクリエーション開発構想(「三田サンクレスト構想(S59)」)がつけられた。
- ・兵庫県においても、北摂地域は、ニュータウンの開発等により急速な都市化の進行がみられ、人口集中の度合いに比べ、公園整備量が不足しており、多様なレクリエーションに対応できる広域公園の整備が課題となっていた。
- ・そこで、青野ダム(千丈寺湖)、有馬富士、福島大池を含む自然環境に恵まれた一帯に、阪神間のレクリエーション需要に対応するため、当公園の整備を行った。

来園者の満足度

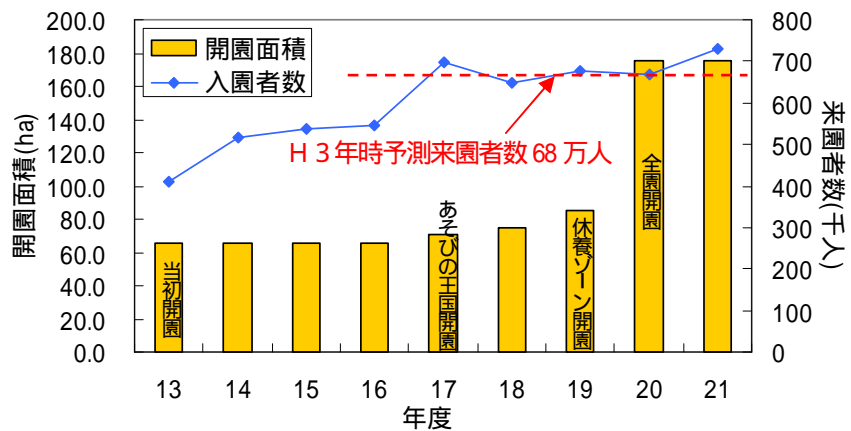
1) 来園者数

指標：平成 3 年基本設計時 68 万人
平成 21 年度実績 73 万人

(平成 3 年時とは、施設内容が異なっている。)

- ・一部開園した(当初開園)の平成 13 年度は来園者 41 万人、その後、「あそびの王国(遊具広場)」の追加開園後は、年間約 65 万人、平成 20 年度からは約 70 万人となっており、当初の予測を上回っている。

開園面積と来園者数

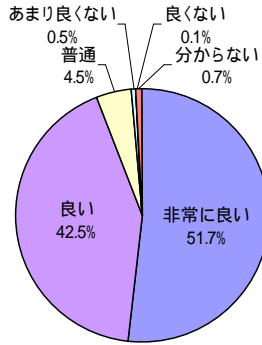


2) 利用者満足度

- ・利用実態調査から、公園利用者の 90%以上が公園について良い印象を持っており、施設や植栽の現状や管理運営に対する評価については、過半数の利用者が満足しているという結果が得られた。
- ・利用頻度は、「ほぼ毎日」から「月に数回」までの高頻度利用者が全体の 30%を超え、「年に数回」の利用者を加えると約 70%に達し、リピーターが多い公園であると言える。
- ・家族利用が 70%を超え、約半数が 2 時間までの利用であること、また公園まで 30 分以内の近隣利用が約半数であることから、地域の余暇活動の場、子供の健全な育成の場としての役割が強いことが推察される。

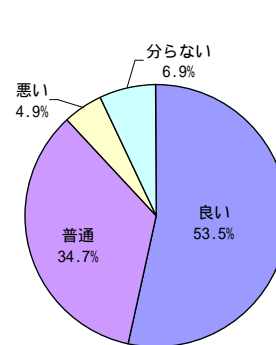
公園の印象

有効回答数:1004



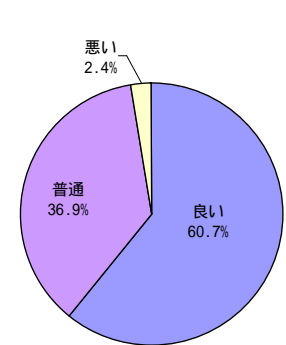
施設や植栽に対する評価

有効回答数:997



管理運営に対する評価

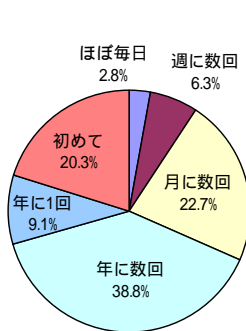
有効回答数:984



上記各項目について、90%が“普通”,“良い”と回答している。

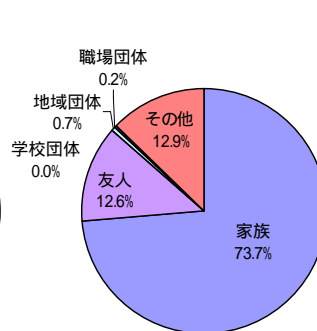
利用頻度

有効回答数:1017



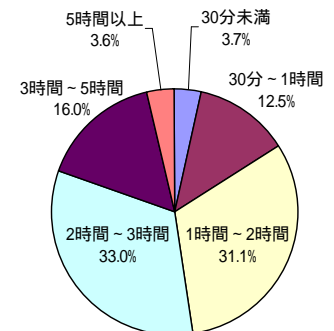
一緒に来た人

有効回答数:1040



利用時間

有効回答数:1005



年に数回、家族連れの利用が多いことが分かる。また、1~3時間の利用が多いことから、長時間滞在ではなく気軽に楽しめる公園として利用されていると考えられる。

【平成22年度利用実態調査】

調査日：平成22年9月18日(土)~10月1日(金)

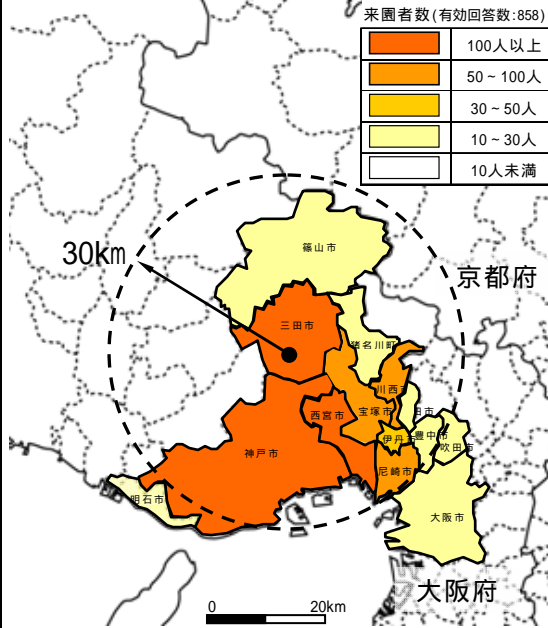
参考【利用者意見(利用実態調査より)】

- ・孫の遊びには近く、自然が多くていいと思います。(神戸市 60代以上女性)
- ・遠いですが、家族でドライブをかねて来るにはとてもいいところ。
(大阪府 30代男性)
- ・静かで散策にはとてもいいです。(三田市 40代女性)
- ・池に入れないようにしてあるのが不自然。もう少し自然が楽しめる施設と
思っていたのでガッカリ。(神戸市 40代男性)

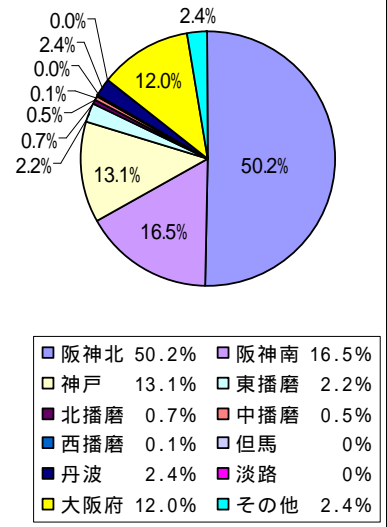
利用圏域(広域的なレクリエーション需要への対応)

利用実態調査から推定される利用圏域は、地元三田市をはじめ、神戸、阪神地域、大阪北摂地域を含む広域に及んでおり、阪神間からの利用者が多いことが分かる。また、利用者の80%が1時間圏内(半径約30km)に居住し、公園までの交通手段は自家用自動車(90%)を占めている。

利用圏域
(利用実態調査中の来園者数の割合)



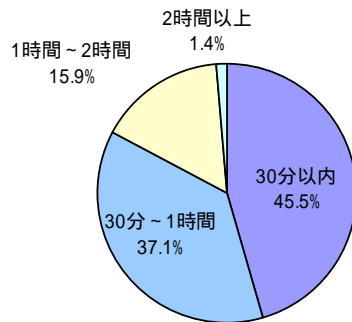
利用者の居住地域
(利用実態調査より)



有効回答数: 1002

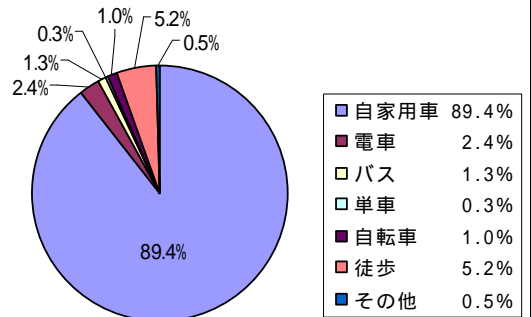
利用者の約80%が阪神間からの利用であることがわかる。

所要時間



有効回答数: 999

交通手段



有効回答数: 999

公園までの所要時間から、1時間程度が利用圏域であると考えられる。
また利用者の約90%が自家用車で来園していることがわかる。

【平成22年度利用実態調査】

調査日: 平成22年9月18日(土)～10月1日(金)

これらのデータにより、有馬富士公園が阪神間の広域公園としての機能を発揮するとともに、都市住民の憩いの場として定着している。

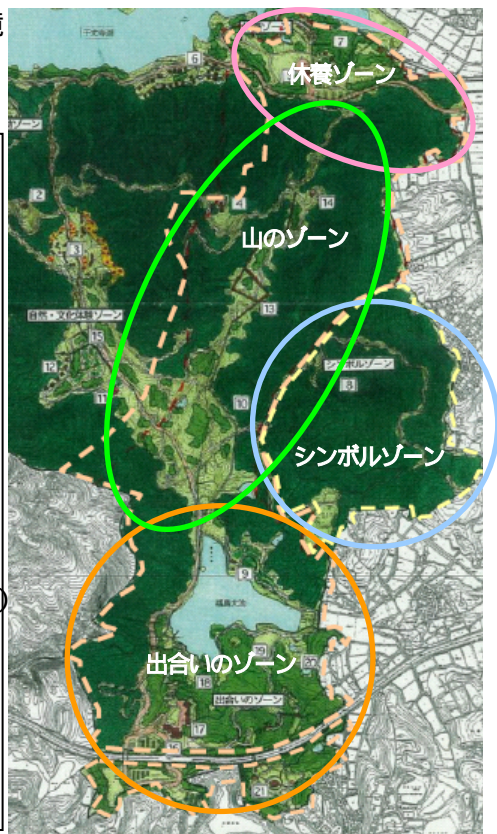
(2)利用者ニーズに対応した公園整備と管理運営
 (大規模な緑地の保全(良好な景観や風景の維持)、公園利用者の交流、体験、環境学習の場、里山活動や環境学習を通じた農山村体験の場)

公園整備
 有馬富士公園では、元々の自然環境を活かすため、コンセプトを持った4つのゾーンに分け、整備を行った。

- ・市街地(ニュータウン)と昔からの集落が接するエリア
 【公園利用者の交流・体験】
 → **出合いのゾーン**
- ・森林の緑を保全するエリア
 【大規模な緑地の保全】
 → **山のゾーン**
- ・青野ダム(千丈寺湖)を眺望し、くつろげるエリア
 【里山活動等の農山村体験の場】
 → **休養ゾーン**
- ・有馬富士を有するエリア(市立公園)
 → **シンボルゾーン**

【】内は整備における主な視点であり、すべてのゾーンが、夢プログラム等により、様々な交流や体験の場として利用されている。

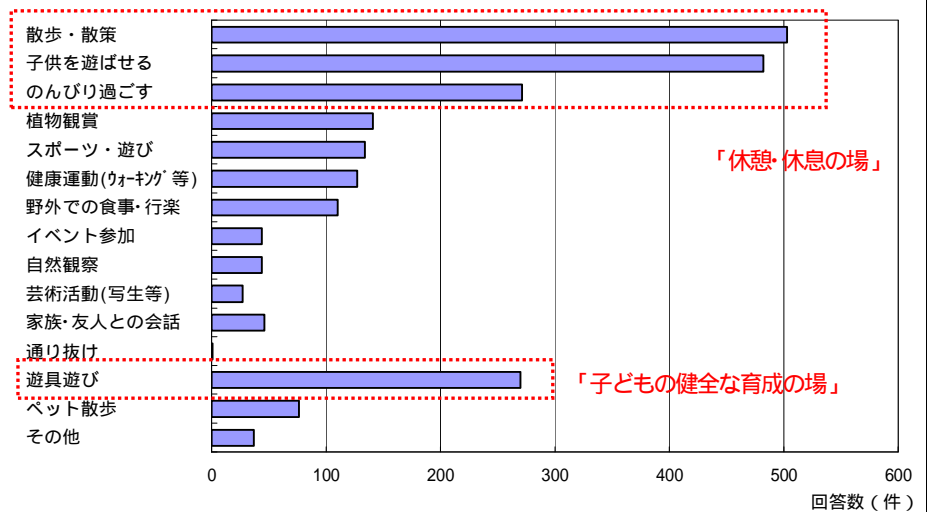
有馬富士公園平面図



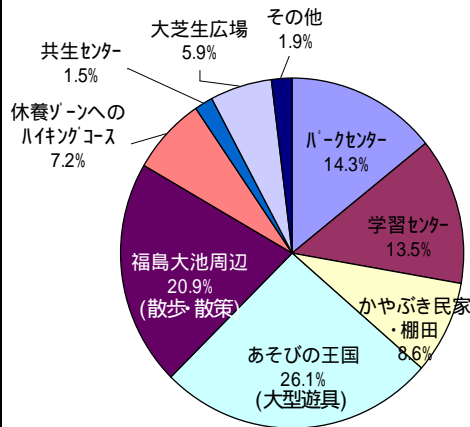
利用者の多様なニーズへの対応

- ・利用実態調査より、「散歩・散策」、「子どもを遊ばせる」、「のんびり過ごす」を主な目的として、公園を利用する人が多い。このことは、豊かな自然環境を持つ当公園を「休憩・休息の場」として利用していると考えられる。
- ・「遊具での遊び」も4番目に多くっており、子どもが自然と親しんだり、また身体を動かして遊ぶことができる「子どもの健全な育成の場」として、存在効果を示していることが分かる。

公園の利用目的



利用した施設



「あそびの王国」の利用率が約26%と一番高く、次いで福島大池周辺が約21%となっていることから、子どもの遊び場や自然の中での休息を求めて、公園を利用していると考えられる。

【平成22年度利用実態調査】

調査日：平成22年9月18日(土)～
10月1日(金)

参考【利用者意見（利用実態調査より）】

【利用者意見（利用実態調査より）】

- ・家が近いので健康の為に歩いています。（三田市 60代以上女性）
- ・クイズラリーは毎月趣向を凝らしてあって楽しみにしています。森林探索も楽しくさせてもらっています。（神戸市 30代女性）
- ・あそびの王国にもう少し屋根のあるベンチがあると良いと思います。（川西市 50代女性）

県民の参画と協働による公園運営

開園2年前の平成11年に、幅広い分野の学識経験者や行政関係者から成る検討委員会を設置し、これまでにない新たな公園運営手法について検討を開始した。その結果、住民グループによる自主企画・運営による「夢プログラム」という仕組みが編み出され、現在は31グループが活動しており、住民の参画と協働により、地域や住民の交流の場が形成されている。

「夢プログラム」とは

住民グループによる手づくりの公園利用プログラムで、一定の条件を満たせば、あらゆるグループが公園で自分たちが考えたプログラムを実施できる。各グループがプログラムの企画・準備・運営を担い、それらを総括する協議会が広報、資材の貸し出し、会場提供を行うもの。

（詳細については、後述「特徴的な取り組み」に記載）

ユニバーサルデザインによる公園整備の推進

平成17年度から取り組みが始まった「ユニバーサル社会づくり 兵庫県率先行動計画」に基づき、平成17年度に管理事務所、トイレ等の建築物や駐車場及び園路について、ユニバーサル状況調査を実施した。

この調査結果を取りまとめ、「バリアフリーマップ（資料-2参照）」を平成18年度から公園のホームページに公開し、高齢者・障害者のみならず、全ての人々にとって安全かつ快適に利用できる「みんなのための公園づくり」を進めている。

上記のことから、有馬富士公園が利用者ニーズに対応した整備と管理運営を行っているとともに、様々な活動の場として定着しているものと考えられる。

【間接効果】

(1) 良好な自然環境の維持

里山の保全

- ・公園整備にあたっては、有馬富士や青野ダム(千丈寺湖)などの豊かな自然環境を改変することなく、公園に取り組んでいる。
- ・参画と協働による公園運営の理念のもと、豊かな自然環境の中で先進的な里山保全に取り組んでいる。

(2) 広域防災拠点機能の保持

防災拠点としての位置付け

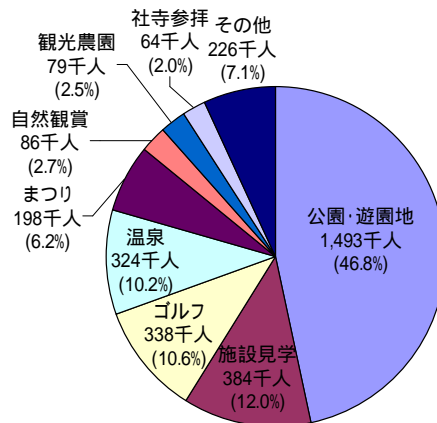
- ・「兵庫県地域防災計画 地震災害対策計画(平成19年修正)」において、阪神北地域における広域防災拠点(芝生広場等を活用した要員宿泊・出勤機能や物資集積・配送機能を兼ね備える公園)に位置付けられている。
- ・公園内の三田市共生センター(設置許可施設)は、三田市の地域避難所(第1次避難所)になっており、防災機能を保持した公園となっている。

(3) 観光振興等地域活性化への効果

地域観光への影響

- ・「平成20年度 兵庫県観光客動態調査報告書」において、有馬富士公園は阪神北地域の主要観光地として位置付けられている。
- ・現在、三田市においては、公園・遊園地を目的とする観光客数が最も高い割合となり、平成20年には観光客数の約半数(46.8%)となっている。
- ・昨年度の県下主要観光施設への入込数では、開園以来、初めて上位10施設に入るなど、県全域で見ても、主要な観光施設であることがわかる。

三田市内の目的別観光客数



三田市統計書H21より

県下主要観光地への入込数

[上位10施設(社寺参拝、イベントを除く)]

順位	観光施設名	入込数
1	阪神甲子園球場 (西宮市)	3,936
2	県立明石公園 (明石市)	2,785
3	六甲摩耶地区 (神戸市)	1,600
4	北野地区 (神戸市)	1,588
5	姫路城 (姫路市)	1,562
6	王子動物園 (神戸市)	1,402
7	須磨海浜水族園 (神戸市)	1,365
8	宝塚大劇場 (宝塚市)	1,004
9	城崎温泉 (豊岡市)	761
10	有馬富士公園 (三田市)	731

H21年度兵庫県観光客動態調査結果(速報)より

イベントの開催

- ・毎年、「夢プログラム」で活動する住民グループの代表が中心となり、指定管理者と協力し、実行委員を立ち上げ、「ありまふじフェスティバル」を春と秋に開催している。現在では、参加者が1万人を超え、地域活性化への効果も大きいイベントと考えられる。
- ・今年10月には「ふれあいの祭典～きらっと 北摂フェスティバル～」が有馬富士公園で開催され、2日間で約7万人が訪れた。

「良好な自然環境の維持」、「広域防災拠点機能の保持」、「観光振興等地域活性化への効果」等の公園整備による間接効果は、十分に発揮されているものと考えられる。

特徴的な取り組み

(1) 県民参加型の公園づくり

運営・計画協議会の設立

有馬富士公園では、兵庫県立都市公園としては初めてとなる「住民の参画と協働」による公園運営に取り組むため、「人と自然の博物館」と連携しながら、学識経験者、住民グループ、行政機関、指定管理者等で構成する「運営・計画協議会」を平成12年に設置し、主として以下の3点の検討を行い、住民とのパートナーシップによる公園づくりを進めている。

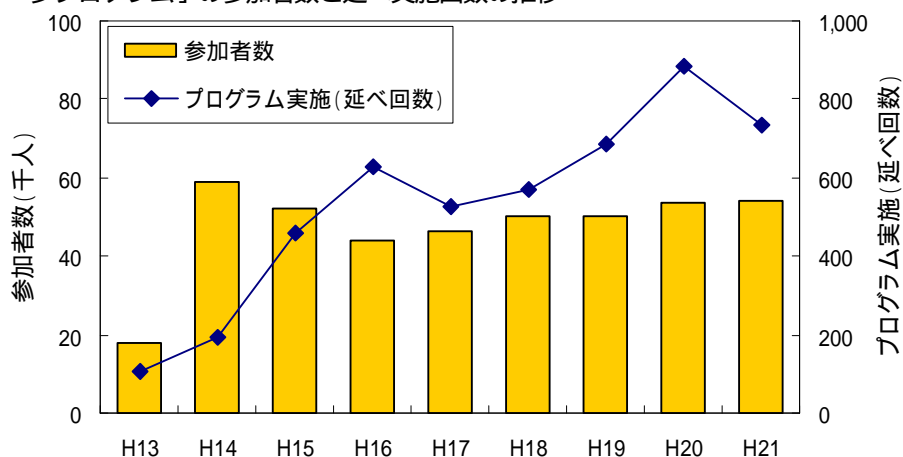
- ・公園における具体的な運営計画について
- ・住民参画のための具体的な方策について
- ・当公園と他の施設とのネットワークについて

これまでに29回の協議会が開催され、協議会でしくみづくりがされた「夢プログラム」では、住民たちが主体となり、様々なイベントが開催されている。

夢プログラム

住民グループの活動内容は多岐にわたり、公園内の里山保全や生物観察など、様々なイベント等を開催し、多様化する公園ニーズに対応している。

「夢プログラム」の参加者数と延べ実施回数の推移



H21に実施された主なプログラム

類型	プログラム	実施場所
イベント	昆虫マスター、カブトムシの幼虫を探せ、生き物観察会、ペンダントづくり、棚田で遊ぼう、かみしばい、オペレッタ観賞と体験会、棚田で稲刈り、フルートアンサンブルコンサート、わらぞうりづくり、むかしのおもちゃづくり、かぎ針編み入門	公園全域 ・水辺の生態園 ・棚田 ・かやぶき民家 ・多目的ホールなど
調査研究	公園に生息する蝶の観察、ヒメカンアオイの保護活動、外来種の生息状況調査、ビオトープ池の再生方法の検討	公園全域 ・棚田とその周辺 ・山のゾーンなど
維持管理	多様な森を創る、棚田活動、里山の手入れをしよう、炭焼	・棚田 ・山のゾーン(里山)など

夢プログラムの事例(資料-3参照)

公園内の棚田や里山を保全するため、活動グループとのパートナーシップにより、公園の維持管理活動を実施している。

1) 住民参画による里山の保全と活用

- ・里山を活用するために、住民参加型で散策路づくりを行うなど、行政主導で進める従来の公園整備と違い、住民主導型の公園づくりが実践されている。



2) 湿地の保全

- ・園内には里山の他、湿地が残されており、貴重な動植物の生息が確認されている。
- ・県立人と自然の博物館の学術的な指導を受け、里山の講習会を実施するなど、活動グループとともに自然保護活動に努めている。



3) 地域の原風景の保全

- ・地域の原風景である里地・里山の景観を再生し維持していく取り組みを、住民の参画と協働のもと進めている。
- ・公園整備前に棚田として活用されていた田んぼをそのまま園内に保全し、住民参画のフィールドとして、活用している。

(2) 人材育成と情報発信

「人と自然の博物館」と連携し、公園で活躍する人材の育成に取り組むとともに、毎年セミナー等を開催し、公園での活動事例を情報発信し、外部へ広く紹介している。

里山クルー養成講座

- ・平成 16 年より、公園での里山体験を通じて、里山の魅力や重要性を広く県民に伝える活動や生物多様性、景観保全を考慮した里山の維持管理ができる人材や活動グループの養成に取り組んでいる。
- ・受講終了生は、環境学習の指導者や地域の里山保全活動など、当公園にとらわれることなく、様々な活動に携わっている。

里山クルー養成講座受講者数

年度	H16	H17	H18	H19	H20	H21
参加者(人)	17人	32人	17人	44人	55人	33人

ありまふじ公開セミナー

- ・幅広い世代の学習と実践の場として公園を活用してもらえるように、セミナーで学んだノウハウをいろいろな公園で実践できる人を育てることを目的に、平成 17 年度より県立人と自然の博物館、地域教育機関、指定管理者、行政が連携し、学生向けにパークマネジメントについて学ぶセミナーを年 1 回開催している。

ありまふじ公開セミナー受講者数

年度	H17	H18	H19	H20	H21
参加者(人)	10人	22人	13人	16人	23人

「ありまふじ公園読本」の発行

有馬富士公園では、今後の住民参画を実施しようとする人たちの参考としてもらえるよう、開園から平成 18 年までの住民参画の活動をまとめた「ありまふじ公園読本」を発行し、住民参画をさらに広げるよう、内外にアピールしている。

改善措置の必要性

(1) 施設整備

- ・春、秋の行楽シーズンには来園者が非常に多く、駐車場が不足する状況にあった。この対策として、平成 22 年 5 月に新たに駐車場(約 100 台)を増設した。今後は経過観察をするとともに、電車・バス等の公共交通機関の利用を呼びかけるなど広報を充実させる必要がある。

(2) 管理運営

ルールづくり

- ・公園の運営ルールについては、管理者が全てを決定するのではなく、学識者や行政関係者、また地域住民が委員として参画する「運営・計画協議会」と公園で活動グループの間で協議がなされ、公園独自のローカルルールを定めている。

- ・それにより、柔軟なパークマネジメントが実践できる環境となっているが、一方、活動グループ間でのトラブルが生じることが多く、課題となっている。
- ・利用者が自由に公園を使える公園づくりを進めるためにも、公園を自由に使える権利とともに、責任を持って活動するという感覚を育てていくことが今後の課題である。

住民参画の発展

- ・開園後、住民参画による様々な活動が行われ、10年を迎えようとしている。
- ・現在、30を越える活動グループが成立し意欲的な活動を行い、プログラムやイベントも定着してきた。
- ・今後は、活動グループが固定化・マンネリ化しないよう、新規に参入したい者を迎え入れる体制、きっかけづくりとなる取り組みが必要である。

同種事業の計画・調査・事業実施のあり方、事業評価手法の改善等

「つくる」から「つかう」へ

(1) 住民参画の拡充

本公園の事業実施にあたっては、「兵庫県立都市公園の整備・管理運営の基本方針」(平成18年3月策定)に基づき、計画・整備段階から協議会を設置し、参画と協働による公園づくりを進めてきた。また参画と協働を支援する仕組みを充実させ、地域との連携を図ることで、公園での様々な住民活動を支え、参画と協働の先導的な公園となっている。

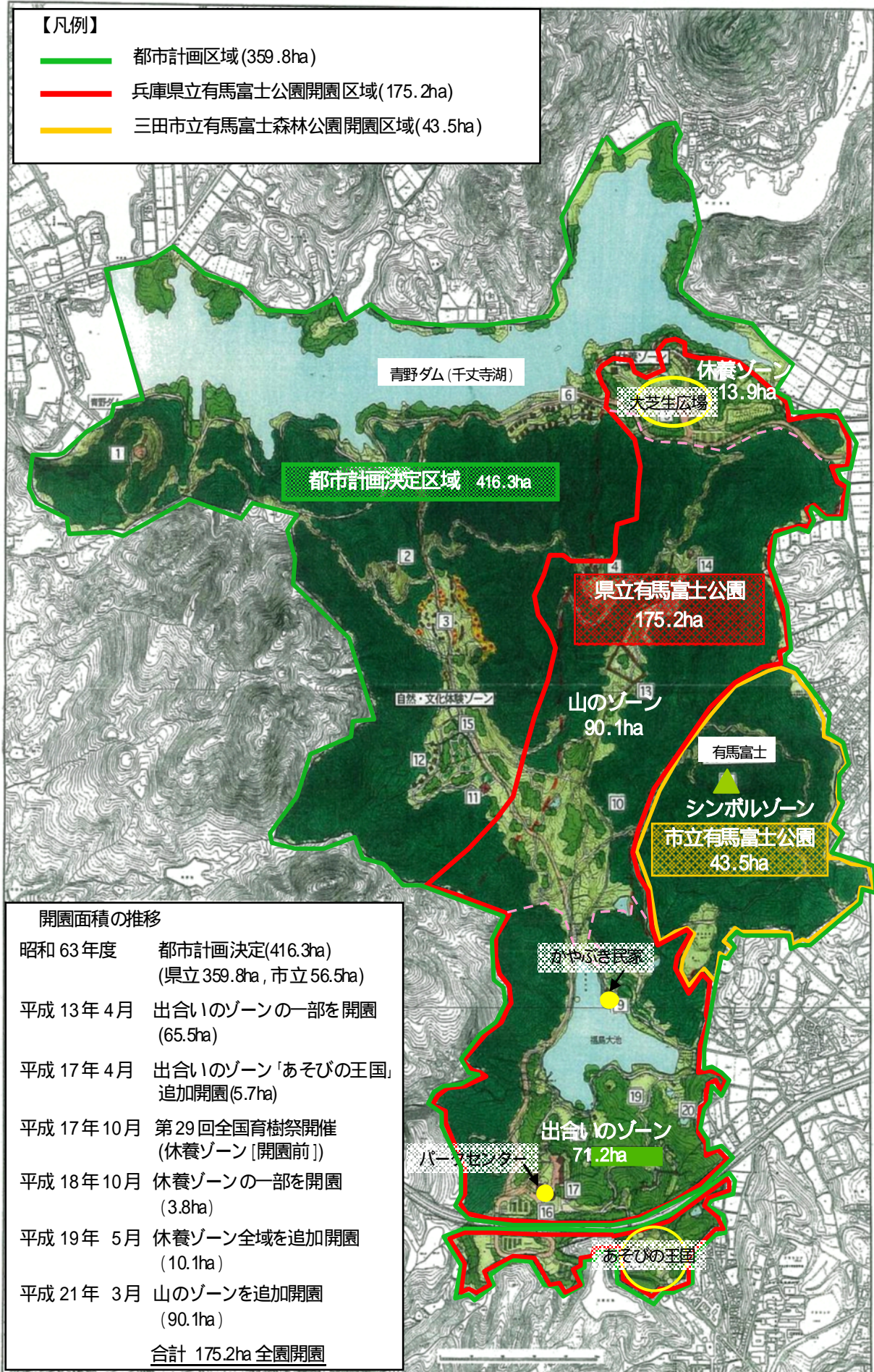
今後の都市公園事業の実施においても、本公園での事例・実績を活かし、管理運営協議会を設置するとともに、パークコーディネーターの更なる活用を図っていくなど、県民とともに育てる魅力ある公園づくりを実施する必要がある。

(2) 公園の今後の発展

わが国が人口減少社会を迎えるなか、都市が拡大する「都市化社会」から、産業、文化等の活動が都市を共有の場として展開する成熟した「都市型社会」への移行が進みつつある。さらに少子・高齢化、地球環境問題など都市環境の保持を図る上で様々な課題が生じてきている。また、これまで経済性、利便性を重視してきた都市住民の価値観も、歴史文化や景観、緑などを重視する方向へ大きく転換しつつある。

「つくる」に関しては、時代の変化とともに、多様化・高度化する公園に求められるニーズに対応できる公園づくりを進めていくことが必要である。また「つかう」においては、地域との連携、参画と協働による公園の運営管理を充実させ、さらに地域の住民活動、活性化の核となり得る公園へ発展させることが必要である。

有馬富士公園平面図



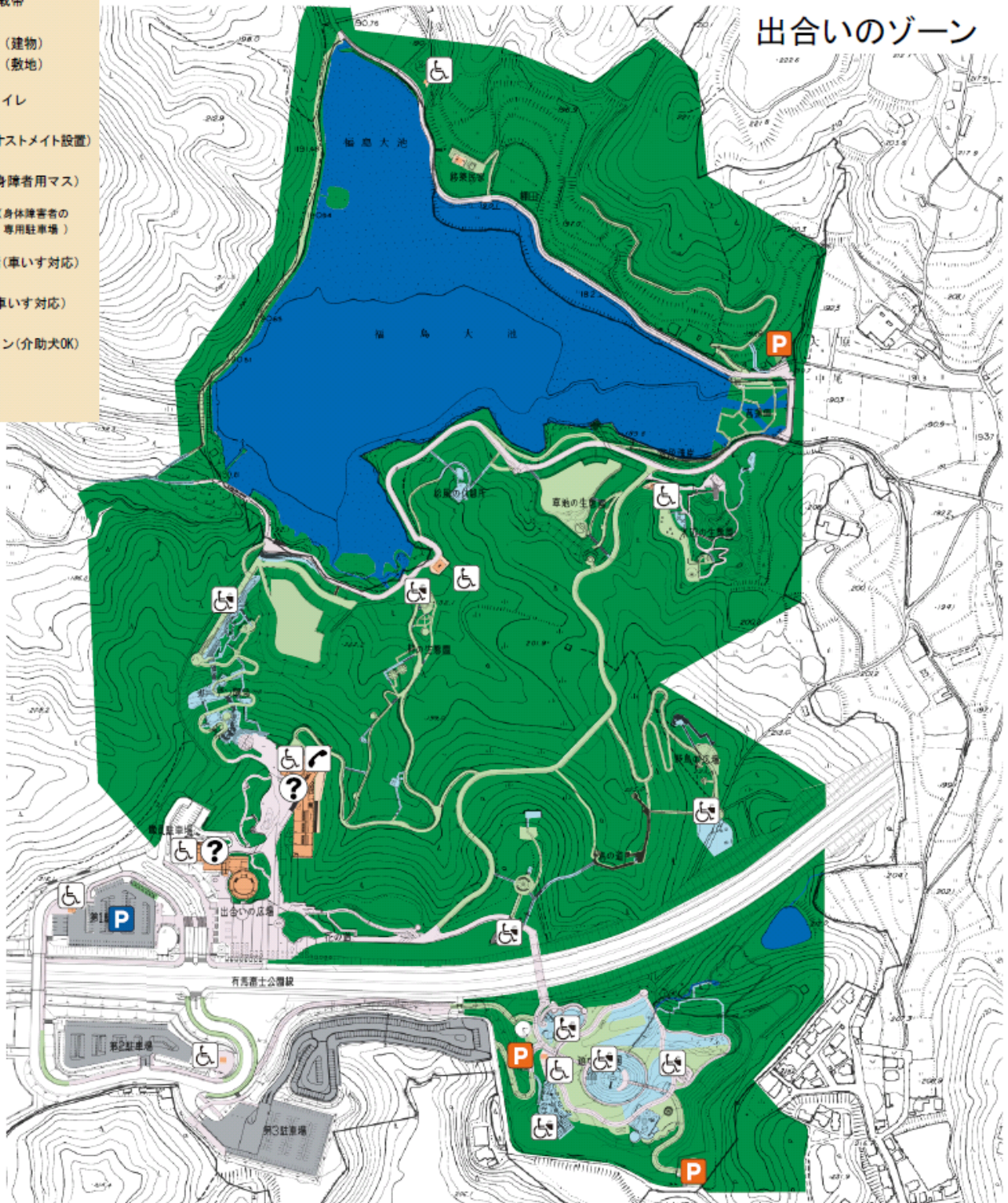
休養ゾーン



凡例

-  車いす自走エリア
-  車いすお手伝いエリア
-  車いす行けないエリア
-  林・植栽帯
-  水面
-  施設(建物)
-  施設(敷地)
-  多目的トイレ
-  トイレ(オストメイト設置)
-  駐車場(身障者用マス)
-  駐車場(身体障害者の専用駐車場)
-  公衆電話(車いす対応)
-  水飲み(車いす対応)
-  レストラン(介助犬OK)
-  案内所

出合いのゾーン



有馬富士公園での活動事例



【夢プログラム】 棚田での活動



【夢プログラム】 自然散策路の整備



【夢プログラム】 かやぶき 民家を利用したお茶会イベント



【夢プログラム】 木工体験イベント



ありまふじ公開セミナーの様子



環境学習プログラムの様子